

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都大田区下丸子 1-8-23
園名	アスク下丸子保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

国旗

<テーマの設定理由>

外国について知ることで、世界に目を向ける

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回ネイティブの講師を招致し他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるようにした。その時点での子どもたちの興味関心をもとに問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにした。

1 1月：日本と異国で共通の物はある・国旗カードを見て国名を学ぶ

1 2月：国旗の塗り絵を行う 日本とアメリカの違いを見付ける

1 月：フラッグの台紙に自分の好きな絵を描く

2月：描いた絵についてを説明する練習を行う 友だちの前に出て発表する

3月：国旗(日本 パキスタン アメリカ)名称を英語では発表する 国旗の塗り絵を本物と同じように塗ってみる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

テーブル 椅子 国旗の絵本 ことばあそび絵本 カード 色鉛筆 地球儀 かるた 世界一周ゲーム
→国旗を見て国を知り、自分で実際に色を塗ってみる。また、自分で国旗を作ってみる
世界をより知るために絵本や地球儀で実際に確認する

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える： 1 1月：アメリカと日本になじみのあるカードの分類分けを行う。

イラストのカードがどちらの国に当てはまるのかを考える。

1 2月："講師：前回の復習 新しい国旗のカードを見て、国名を学ぶ。

国名を学べるゲームを行う。

1月： 講師に見守られながらフラッグの台紙に自分の好きな絵を書く。

2月： 講師に見守られながら、自分の名前とフラッグに何を書いたのか、好きな色について英語や日本語でクラス発表をする。"

3月：国旗のイラストを見て、本物と同じように色を塗ってみる

探究活動の様子：

11月：講師がアメリカと日本になじみのある物を伝えると「これはにほんにもある」

「これはない！」等、積極的に気が付いたことを話す様子があった。"

12月："講師：前回の内容を確認すると「あめりかこのあいだやったね！」と内容を振り返り

取り組んでいる様子があった。新しい国旗を見ては、「ばきすたんにはほし

とつきがある」「すいすはびょういんみたいだね」と思い思いの感想を話していた。

1月：色を塗ることが大好きなクラスなので、楽しそうに取り組む様子が見られる。

どんな絵にしようかな？何色を使おうかなと友だちと話しながら進める子ども中にはいた。

2月：クラスに向けて発表をする時には隣にいた講師と共に英語で発表をするが、緊張し

てしまう児がいる。その中で、英語を話してみることに楽しさを感じて笑顔で話すことができる児もいた。

3月：横一列に並び、国旗のイラストを見ると「（アメリカの青いところ）むらさきいろ

でぬる！あおだよ！」と子ども一人ひとりによって見え方が異なる様子があり

それぞれ自分が見て考えた色を塗っていた。

ふりかえり(保育者の気づき)

保育者自身がどのような活動なのかや必要な物はなにかどのように展開していくかの理解が乏しく探求実践が難しい状況になっていたが、探求を進めることで、20分間以上集中して国旗の色を塗る児がほとんどで、保育の中でアメリカ以外の国旗の塗り絵も用意して取り入れていくことが遊びのアイデアに加わった。自由遊び以外の時間に、塗り絵の活動時間として取り入れることも子どもたちが楽しめるように感じた。

友だち同士で国旗を見せ合い、どんなデザインにしたのか話す姿があった。次回のレッスン日に発表もあるので話したことを活かして練習をしていく。

また英語での会話を、楽しみながら日常でも行えるように遊びの中に取り入れていくことで、身近に感じられるようになった。

【4・5歳児講師実施分】

問いを考える：11月：イラストのカードが日本とアメリカのどちらに当てはまるのかを問いかける

12月：新しい国旗カードを見て、国名を知り学ぶ

1月：講師に見守られながら国旗の台紙に自由に絵を描く

2月：自分の名前と国旗に描いたもの、好きな色についてを英語で発表する。発表する時は皆の前に出て行く。

3月：2組になり、床に置いた国旗カードの国名を英語で言いながらジャンプする。最後の3つ目の国旗まで来たら2人でじゃんけんを行う。「この色は国旗の中にある？」と英語で質問し、イエスカノーで答える

探究活動の様子：11月：講師：講師がアメリカと日本、それぞれの国にある物を伝えていくと、子どもたちが知っていること、今までに見たことのあることについてを意欲的に伝えようとする姿があった。

12月：知っている国旗があると「この国してるよ」と反応していたり、他にもどんな国旗があるのか気になっている様子だった。

1月：講師と色を英語で言ってみたり、簡単な単語を教えてもらいながら真似て言う姿がある。また、表だけではなく裏にも描いたことを講師や職員にも伝えて国旗づくりを楽しむ姿が見られている。

2月：講師に「誰からにする」と聞かれると自ら手を挙げる児の姿もある。友だちの前に出て大きな声で発表することが出来る児もいるが、人の発表を聴くときは集中して聞こうとしない姿が見られた。英語で発表することに難しさを感じて逃げ出す児がいた。英語で発表することを楽しむ児もいた為、褒めて自信へ繋がるようにした。

3月：二人組ジャンプとじゃんけんでは、身体を動かすことが加わったこともあり、笑顔で楽しそうに行っていた。国旗の中の色についてを、よく考えながらゲームに参加する姿ある。

ふりかえり（保育士の気づき）：

・講師の言葉掛けを聴き、すくわくプログラムで必要な言葉掛けや内容を習得していくようにしていた。世界地図や図鑑を使って子どもたちの興味や関心の幅を広げていきたい。子どもたちから出てきた言葉から、すくわくプログラムでの楽しさを広げていきたい。

友だち同士で国旗を見せ合い、どんなデザインにしたのか話す姿があった

英語での会話を、楽しみながら日常でも行えるように遊びの中に取り入れていき、子どもたちの発言を取り入れながら進めていることにより、子ども達は楽しみながら参加出来ている様子だった。

3才児 写真



4・5歳児



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都大田区下丸子 1-8-23
園名	アスク下丸子保育園

1. 活動のテーマ

音の鳴る仕組みを考えよう
身近なものから音を探し、音の鳴る仕組みを分析したり演奏したりする。

<テーマの設定理由>

日常にある「音」に触れて考えていく中で様々な音に気付き、音に親しみを持つ。

2. 活動のスケジュール

11月から3月まで行い、月に1回音楽の講師を招致した。クラスで月に1回探求活動を行う。

★3歳児

11月:身近な音(オノマトペ)に触れる。絵本を楽しむ。

12月:身近な物(新聞紙、ペットボトル)を使ってどのような音が鳴るのかを探求する。実際に楽器で演奏を楽しむ。

クラス:最近聞いた好きな音について探求する。”

1月:身近な楽器(トライアングル・カスタネット等)あやとり等を使い、音の仕組みを深ぼりする。

クラス:好きな音について音の仕組みと共に深く考える

2月:楽器の仲間集め(太鼓、トライアングル)を遊びの中で行う。

クラス:”身近な楽器について考える

(楽器の名前、どんな音が鳴るかオノマトペで表現をする、どのように音が鳴る?→音の仕組みの分類分け)”

3月:楽器カードを見ながら(リコーダー等)CDでカードの音を聞く。音の鳴らし方の違いに気づく。

クラス:今まで習った音の仕組み(ぶつかっておとがなる、げんでならず、でんき、太鼓など膜、喉)の中で、ぶつかって音が鳴る、弦で鳴らす、太鼓など膜で鳴るに合った楽器を作る。

★4歳児、5歳児

11月:静かに耳を澄ませると、どんな音が聞こえてくるかを探求する。

クラス:聴こえて来る童謡の中に、どんな音が聴こえるか、探しながら聞いてみる。

12月:新聞紙とペットボトルなどを触りどんな音がするのかを探求する。

クラス:”・楽器では音のなり方について自分で気づいて工夫できるようにする。・最近聞いた好きな音について探求する。”

1月:音の仕組みについて考える。

クラス:クラス:お部屋の中にある物を使って、音を探してみる。

2月:楽器の音の鳴る仕組みを知ること、音の仕組みについて深ぼりする。

クラス:ボールを床についた時の音、レゴブロックの箱の中に手を入れてブロックを探す時の音、それぞれの音の鳴る仕組みと4つの楽器のグループのうち何処に当てはまるかをグループで話し合う。

3月:様々な楽器の音を聴いてみる。(ミュージックパット、アゴゴウッド、ハンドウッドブロック、ペントニック)

クラス:身の回りにあるもので音が鳴るものを見つけてみる。また、どんな音が鳴るかをよく聴いてみる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

★3歳児

11月:”オノマトペ絵本・Bluetooth スピーカー →オノマトペの絵本の読み聞かせを行う。

12月:”新聞紙、ペットボトル→新聞紙を丸めたり破いたり、ペットボトルを叩いてみたりしてどんな音がするのか”探求する。

クラス:ペン楽器(タンバリン、鈴、トライアングル、ミュージックポン・プー)、iPad
→楽器を使って音を出し、オノマトペ探し”

1月:”のど、カスタネット、トライアングル、太鼓、あやとり→実際に鳴らしてみても音の仕組みをする”

クラス:紙、ペン、オノマトペ
→好きな音を探した後、意見をまとめ、オノマトペで音探しを行う”

2月:

クラス:身近な楽器のイラスト、まとめる用の紙(画用紙)音が分からない楽器は、動画で音のみ聞く”

3月:楽器カード(リコーダー、大太鼓、鉄琴、木琴、バイオリン、ビオラ、チェロ、コントラバス)CD、CD デッキ(カードの楽器の音を聞く)

クラス:楽器作りに必要な材料(紙皿、輪ゴム、箱、紙コップ、割りばし、油性ペン、水性ペン)
内容をまとめる為のペンと画用紙、椅子”

★4歳児、5歳児

11月:”オノマトペ絵本・Bluetooth スピーカー→擬音の曲を使用してオノマトペ絵本の読み聞かせを行う。

クラス:色鉛筆

12月:”新聞紙、ペットボトル、袋、ペン→丸めたり破いたり、叩いてみたりしてどんな音がするかを探求。

クラス:”iPad 色鉛筆

→童謡を流しその中から音を探しオノマトペを探す”

1月:”保育室内にある玩具 新聞紙 広告紙 オノマトペビンゴ 色鉛筆→保育室にどんな音があるのかを探しオノマトペビンゴをする。

クラス:”保育室内にある玩具 新聞紙 広告紙 オノマトペビンゴ 色鉛筆

→保育室にどんな音があるのかを探しオノマトペビンゴをする”

2月:”身近な楽器のイラストまとめる用の紙(画用紙)音が分からない楽器は、動画で音のみ聞く”

クラス:スチムドラム トライアングル 音の仕組みが描かれた紙

3月: CD、CD デッキ(カードの楽器の音を聞く)

クラス:保育室内の玩具、ままごと用のコップ、皿、深皿

4. 探究活動の実践

【3 歳児実施分】

問いを考える:「オノマトペ、擬音語について」「身近に潜む音ってなんだろう」「身近な物の持つ音ってなんだろう」「身近な楽器ってなんだろう」「音のしくみについて知る」「自分が好きと感じる音はどのようになっているのか」「音の分類分けをしてみよう」「身近な楽器について考えよう」「楽器の写真を見て楽器の鳴らし方や音の違いに気づこう」「音のしくみを生かして楽器を作ってみよう」

探究活動の様子:

始めはオノマトペってなんだろうという所から始まる。子どもたちは絵本を見たり CD から流れる音に興味や関心をもったりして聞いていた。散歩先や園内でオノマトペビンゴを楽しむ。「このおときたことある」「たのしいね」とイラストの音を見つけると自分で関連付けて考えてゲームを楽しむ姿がみられる。

身近な物の持つ音については新聞紙とペットボトルを使う。

新聞紙:ちぎった時には「びりびり」と鳴る。丸めた時には「くしゃくしゃ」と音が鳴ると探求活動を通して気づいていた。ペットボトル:初めはペットボトルの本体を握って「ぐしゃぐしゃ」とした音を感じていたが、保育者の声掛けによりペットボトルキャップにも関心が向き、床に「コンコン」として叩いてみたり、ざらざらの部分を爪で触って音を鳴らしたりしていた。”楽器については”楽器:「つよくたたくとおとがおおきくなる」と子どもたちが気づいて、取り組もうとしていた。好きな音について:「ままのほうちょうでおりょうりする、とんとんっておとがすき」とそれぞれに好きな音を共有した。その後の探究活動では、全部で 15 個の身近な楽器と、自分の声について考える。子どもたちは「テレビで見かけた」と話したり、触ったことが無い楽器は「どんなおとがききたい」と保育者に話したりする。音のみ検索をして耳を澄まして聞いてみると子どもたちから様々な発見が生まれて、実際に触りたい等と思いつきに話す児がいる。中には音の仕組みが分からない児がいた為、講師に聞いてみたいと話す児もいた。”

音のしくみについては、子どもたちが道具を使って音を聞く体験をする中で「〇〇はぶつかっておとがなっている」と感想を伝えている。中には聞こえずに「きこえない」と話す子もいたが、耳を近づけて工夫して聞こうとし「きこえた」と音を聞こうとする子が多かった。

音の分類分けについては、”様々な好きな音がでて分類分けをしていったが、子どもたち同士の話し合いの中では 5 つの音の分類に分けられない物が話し合いの中で出てくることに気が付いていた。

中でも電気で音が鳴る仕組みについては 1 番わかりやすい様子がある。”

”弦で音を鳴らす楽器でバイオリンとバイオリンに似た楽器(ビオラ、コントラバス、チェロ)を講師が紹介すると、音の鳴り方(高い音、低い音)や楽器の大きさの違いに気づいている児が多かった。子どもたちは活動に興味や関心を持つ様子で CD から楽器の音が流れると耳に手を当てて、じっと集中して聞いている姿が見られた。

楽器作りについては、保育者が材料を用意すると、「〇〇ができそう」「〇〇つくりたい」と試行錯誤しながら取り組む。出来上がると思いつきに音を鳴らし「おとがなった」「おなじのをつかったのに、ちがうおともあった」等の発見がある様子。次回のレッスンで演奏会をすることを楽しみにしている。

ふりかえり(保育士の気づき):・オノマトペは音のベースとなるもので、そこから身近な物の音に気づき音の仕組みを知る。

そこから楽器の音の仕組みにも展開されているのだと感じた。子どもたちが耳をすまし、音を聞く姿。聞こえてきた音がなにに当てはまるのかを考えることで子どもたちの聴覚や脳が刺激されていっている。

今回のすくわくを通して子どもたちの周りの子どもたちを取り巻く音環境について改めて考えていきたい。

【4、5歳児実施分】

問いを考える：「オノマトペ、擬音語について」身近に潜む音ってなんだろう」「身近な物の持つ音ってなんだろう」「音の仕組みについて知る」「お部屋の中の音を探し」「楽器の音の鳴る仕組み」「動作や遊びから音を探し考える」「楽器について考えてグループで話し合いをする」

探究活動の様子：

オノマトペと音探しは、室内にて、見付けた音に丸印を付ける子どもたちの姿があった。「～の音も聞こえた気がした」と言い、友だちとの会話を楽しむ姿も見られていた。

身近に潜む音ってなんだろう身近な物の持つ音ってなんだろうについては、聴こえて来る音楽の中に含まれる楽器の名前を発言する姿があった。人が歌っている声が聴こえてくるとも発言していた。

身近な物が持つ音については、新聞紙と広告紙で破く、叩く、踏む、折る等の動作を行い、音の鳴り方を試す児の姿があった。広告紙では以前に、スチームス保育で行った鉄砲を折り、鳴らそうとする児もいた。新聞紙で紙飛行機を折り折る音を聴こうとする児もいた。ままごとコーナーでは叩く鍋がスチール製か木製かにより、音が違うことに気が付いていた児がいた。

音の仕組みについては、楽器によって叩き方が違うことや音の違いに気が付き、「音が短いね」「音が長いね」と響く音の違いにも気づけていた。楽器についてを友だちと話し合って考える姿がある。事前の講師による説明（楽器の鳴る仕組みについて）を思い出して、考える児の姿がある。知っている楽器についてを講師に嬉しそうに伝える児の姿がある。どんな風に鳴らすのかを考えることにより楽器に興味を持つ児の姿があった。各々が音を探し出し、手に取るもの同士を合わせてみるにより、音を鳴らして試す姿があった。グループでは、各々が見つけた音を順番に伝え合い、お互いに知る姿がある。他児が発表している時に自分たちの順番を決めようとする姿が見られた為、発表が始まったら聴くことが大事であることを伝える。

ふりかえり（保育士の気づき）：

「聴く」ということに注意が向き、意識、集中力共に高められる為大変為になる活動と感じた。

遊びや日常生活の中でも、音の鳴る仕組みが隠れていることに気づき、楽しめると良いと感じる。

グループでの話し合いでは、子どもたちが好きな音を話し合う上で、保育者主体にならず子どもたちから出た意見を保育者が吸い上げて、話が脱線した時に援助できるようにしていった。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都大田区下丸子 1-8-23
園名	アスク下丸子保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

～ボール～

<テーマの設定理由>

エリアでドッチボール大会があり、ドッチボール大会に向けて、ボールに触れ合う為。探究活動につなげられればと考えたため。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回体操の講師を招致し身体の動かし方についてこどもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てるような助言をもらった。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と体操講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする。

11月：取りやすいボール・投げやすいボールは何だろう？

グループごとに保育園内にあるボールから探してみたり、作ってそれぞれ探求し具現化していく。

12月：取りやすいボールを投げやすくするには？投げやすいボールを取りやすくするには？

11月に探求したボールを使用して、グループごとにそのボールをそれぞれ投げやすく、取りやすくしていく。

1月：遠くまで飛ばす方法はどんなのかな？

12月に探求したボールを使用してどうしたら遠くまで飛ぶのかをグループごとに探求をしていく。

2月：どのようなボールが蹴りやすいのか

グループごとに話し合い保育園内にあるボールから探し、コントロールをして蹴りやすいボールを探求する。

3月：転がしやすいボールはどんなの？(3歳児)/転がしやすいボール・つきやすいボールはどんなの？(4.5歳児)

四角でも転がしやすいのか、四角のボールと丸のボールはどちらが転がしやすいのか体験を通して探求する。(3歳児)/グループごとに転がしやすいボール・つきやすいボールを探求していく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

11月：グループごとに話し合う時、机をくっつけて友だちの顔がみんな見え話しやすい環境を準備する。また、グループで話したことを書き留められるように紙とペンも準備をしていく。

話し合ったことを具現化出来るように風船や各大きさ・形のボールを準備する。

12月：さらに探求が出来るようにグループで決めたボールを準備する。

重さを足す場合はビニールテープや粘土を準備する。ど用意した。

1月：園内にある様々なサイズのボールを集め、子どもたち自身が探せる環境を準備やボールを作るにあたってニューブロック、粘土などを準備する。

2月：園内にある様々なサイズのボールを集め、子どもたち自身が探せる環境を準備やボールを作るにあたってニューブロック、粘土など準備する。カラー体操リングを使ってゴールをつくる

3月：園内にある様々なサイズのボールを集め、子どもたち自身が探せる環境を準備する。

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：「大きいボールと小さいボールの投げやすさについて」、「大きいボールを速く投げるにはどうすればいいか」「優しく取りやすいボールはどんなか」、「ボールの種類や重さ比べ」、「蹴りやすいボール」、「転がしやすいボール」

探究活動の様子：

はじめに大きいボールと小さいボールに触れた。小さいボールは両手でも片手でも投げられるけれど、片手の方が投げやすく、大きいボールは片手より両手の方が投げやすいことを学んでいた。

大きなボールを早く投げるには、上から両手で投げる。優しく相手が取りやすいボールは下から投げる、転がすと相手が取りやすいと気づくことが出来ていた。

また、ボールの種類や重さ比べをしてみると「かたい」「つるつる」等、様々な意見が同じボールを触る中で出てきていた。重さ比べでは保育者が重たいボールの順番に立ってみようと話す子どもたち同士で「こっちの方が重たいからここに並んで！」と話し合い並ぶことが出来ていた。

蹴りやすいボールについては一人ひとり実践を行う。一人一人が発表した後、小さいボールは蹴れるけれど難しく、大きい方が蹴りやすい。重くて大きいボールは一番蹴りやすいと話をしていた。

転がしやすいボールを探究では、四角形のボールでも転がしやすいのかを探究し、作る・物を見つけるチームに分かれた。ニューブロックを保育者が用意をすると取り組む児や「(体操講師が)ねんどつかうといいよ！っていった」と粘土で作る児がおり、四角よりも丸の方がよく転がるけれど、ボールが転がる中で物や壁に当たるとボールは転がらなくなってしまうと気が付くことが出来た。

ふりかえり(保育士の気づき)：

課題をさらに探求することの難しさや楽しさを感じている様子があり、話し合いがまとまらないと困ってしまう姿が見られ話し合いをまとめる為にはどうしたらよいかを考えたり、ボールの前取る姿勢が大切だということも子どもたち自身学んでいる様子であった。蹴るから転がすの動きに展開をしていくにあたり、「まるいのじゃなく、しかくいぼーるでころがしたい」と子どもからの意見があり、すくわくを通して子どもたちの探求したい思いを引き出すことが出来てきていて良かったと感じた。

【4.5 歳児実施分】

問いを考える：・投げやすいボール・取りやすいボールはどんなのだろう？

・蹴りやすいボールはどんなのかな？

探究活動の様子：

どんなボールにしたいのか2つのグループに分かれ話しあう姿がある。ボールを作るという発想になかったが、保育者が紙や風船、袋などで作っても良いこと、〇〇はボールになるのかなと広げていくと、「紙は軽いからすぐに落ちちゃう」「風船で作ってみたい」と作ることに繋がっていた。風船はゆっくりおちるから撮りやすいが遠くまで飛ばすには軽すぎてテープを使って重くしていた。また、投げ方にも工夫する姿が見られた。グループの中で“中ぐらいのボール”とそれぞれ言い探すが、発表時に同じ中ぐらいでも大きさが違うことに気が付いていた。

“蹴る”にテーマを変えた時には柔らかいボールより少し硬めのボールが蹴りやすいことに話がまとまっていた。その後ボールは投げる・蹴る以外のもどんなことが出来るのかを考えると“転がす”“つく”ことも出来ること、転がすとなると丸くなくても四角でも転がすことに気が付き楽しむことが出来ていた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

グループの中でも発言が出来ない子や発言をしても聞いていなくてトラブルになることもはじめはあった。少しずつグループでの話し合いや実践を通してまとまる姿が見られるようになってきた。どの問いにもボール＝丸という固定概念があり、保育園にある物で探そうとする姿があった。自分たちで考える、“やってみよう”という気持ちが出るのは保育者の投げ掛ける言葉も大事になってくると感じ、グループで1つのものを見つけていくことも正解だが、一人一人やりやすいボールが違うことにも気が付く一つとして正解だったと感じた。

子どもたちが納得できるまで出来る環境をつくることで話し合い、実践と深く探求することが出来た。

